

野付崎の維管束植物リスト(補遺)

深津 恵太*

A supplement report to the vascular plant flora of Notsuke-saki, Betsukai-cho, Eastern Hokkaido

Keita FUKATSU*

はじめに

北海道東部に位置する野付半島は鉤状に曲がった分岐砂嘴である(高野 1978)。野付半島の先端部(以下、野付崎)では2019、2020年の植物相調査で76科336分類群の維管束植物が確認されている(深津 2021)。その後、筆者は2021、2022年も継続して植物相調査を行い、前回未記録の維管束植物を採取しリスト化した。また前回報告した標本の一部を再同定した。

方法

調査箇所は2008年に国土地理院が刊行した2万5千分の1地形図「野付崎」の陸域で、点在する小島は調査の対象外とした。調査面積はおよそ11km²で、対象地域は野付風蓮道立自然公園に指定されている。また、北海道森林管理局の国有地も含まれているため個別に植物の採取許可を得た。

調査は2021年が6月27日から11月13日の計9回、2022年は8月20日の1回実施した。植物採取は基本的に1種につき3サンプルとし、根掘りを用い根から上部全体を採取し、希少種や個体数の少ない種については保全に配慮した採取方法にした。同時にサンプルを写真撮影し、生育環境と緯度経度(GARMIN社製 eTrex Touch 25J)を記録した。イネ科など微細な特徴が同定に必要な種については針とピンセットを用い花部や果実を分解し実体顕微鏡、生物顕微鏡を用いて詳細に調べた。学名・科名・和名ならびに分類体系は大葉類については海老原(2016)に、被子植物は大橋ほか(2016a,2016b,2017a,2017b)に従った。

結果

以下に記述した再同定の2分類群を含む、11科18分類群を確認した(表1)。

このうち環境省のレッドリスト2020に掲載されているのは絶滅危惧II類(VU)のヒメハナワラビ

Botrychium lunaria と、準絶滅危惧(NT) エゾゴゼンタチバナ *Cornus suecica* の2種である。ヒメハナワラビの分布状況は不明であるが、筆者は1カ所でしか確認していない(図1:A)。エゾゴゼンタチバナは過去に記録されていたボッコ沼周辺の淡水湿地では確認できなかったが、砂浜から風の営力で飛来した砂で覆われている道路法面に生育していた(図1:B)。

エゾコゴメグサ *Euphrasia maximowiczii* var. *yezoensis* は2018年にトドワラ遊歩道で観察されたのを最後に前回の調査では未確認であった。本調査では道道から漁業用の番屋に入る、入口周辺の砂利道沿いで確認した(図1:C)。

<同定留意種>

ウサギアオイ *Malva parviflora* (標本番号1054)は北海道外来植物便覧—2015年版—(五十嵐 2016)には掲載されておらず、おそらく北海道では初確認と思われる。場所はポンニクルに設置されたシカ捕獲用の囲い罫周辺の敷き藁上で、おそらくその設置に伴い混入したものと思われる。移入経路は不明であるが、広範囲には拡大していない。類似種のナガエアオイ *Malva pusilla* の分果の縁には翼が無いのに対し、ウサギアオイは歯車状に翼があることで識別できる(清水 2003)。果実は1個のみ採取でき、径5.15mm。分果は10個で有毛、縁には歯車状の翼がある。種子は無毛で径1.8mmであった(図1:D1-6)。

<移入種>

本報では過去野付崎には生育していなかったが、近年限られた場所にのみ入り込み、まだ定着し拡大していないと考えられる種を移入種とした。ヒメカナリークサヨシ *Phalaris minor*、イヌビエ *Echinochloa crus-galli* var. *crus-galli*、キンエノコロ *Setaria pumila*、ウサギアオイ、ハタザオガラシ *Sisymbrium altissium* はポンニクルに設置されたシカ捕獲用の囲い罫周辺や罫までの作業道でのみ確認している。イヌビエ、キンエ

* 北方環境研究所 Institute of northern environment

ノコロは国内では在来種であるが野付崎においては現地の状況から移入種と判断した。

〈再同定〉

深津 (2021) が報告した以下の 2 種について再同定を行った。

(1) シコタンアザミ *Cirsium ito-kojianum* (標本番号 667)

同一種として筆者が保管していた標本 (標本番号 713、870) をあらためて国立科学博物館の門田裕一名誉研究員に同定していただいた。正式な分類論文は未発表であるが、(仮称) エゾノキレハアザミ *Cirsium yezopinnatifidum* であるとのことで訂正する。

2) オクミチャナギ *Polygonum aviculare* subsp. *neglectum* (標本番号 469)

瘦果を調べ直した。瘦果は不等面の 3 稜形で、2 面が広く平坦で 1 面が狭くへこむ。そのため大橋ほか (2017a) の記述にしたがいハイミチャナギ *Polygonum aviculare* subsp. *depressum* に訂正する。2021 年の調査でもハイミチャナギを採取した (標本番号 1026)。

標本の保管

採取したさく葉標本の全分類群を含む 19 点は釧路市立博物館にて保管する。

まとめ

2019-2022 年の野付崎での植物相調査で 79 科 352 分類群の維管束植物を確認した (再同定を含む)。今回報告した 18 分類群のうち、5 分類群はシカ捕獲用の囲い罠設置に伴い移入したと考えられた。本来、在来植物の保全を目的としたシカ個体数管理のために設けられた囲い罠が、結果的には外来種拡大の一因になっていた。シカ囲い罠設置には、囲い罠や誘引餌、作業車や作業道のための盛土などによる種子や植物体の混入が起こらないように対策を講じる必要がある。

謝辞

調査に際し北海道根室振興局より野付風蓮道立自然公園特別地域内における植物の採取許可をいただいた (根環生第 3928 号指令、根環生第 4036 号指令)。また北海道森林管理局根釧東部森林管理署より野付崎の国有林内における高山植物等の採取について許可をいただいた (2 根東管第 918 号、3 根東管第 854 号)。野付半島ネイチャーセンターの石下亜衣沙専門員 (当時) には調査に同行していただいた。国立科学博物館の門田裕一名誉研究員には標本の同定をしていただいた。衷心より感謝申し上げる。

引用文献

- 五十嵐博. 2015. 北海道外来植物便覧-2015年版-. 北海道大学出版会, 札幌.
- 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I 学研プラス, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 2016a. 日本の野生植物(改訂新版)2. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 2016b. 日本の野生植物(改訂新版)3. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 2017a. 日本の野生植物(改訂新版)4. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 2017b. 日本の野生植物(改訂新版)5. 平凡社, 東京.
- 清水建美(編). 2003. 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.
- 高野昌二. 1978. 野付崎における分岐砂嘴の発達. 東北地理 30: 82 - 90.
- 深津恵太. 2021. 野付崎の維管束植物リスト. 釧路市立博物館紀要 39: 1 - 15.

表1 野付崎維管束植物リスト補遺(2021、2022年調査)

種名	学名	生育環境
大葉類 Euphyllophyta		
ハナヤスリ科 OPHIOGLOSSACEAE		
ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i> (L.) Sw.	草地
被子植物 Angiospermae		
イネ科 POACEAE		
エゾヌカボ	<i>Agrostis scabra</i> Willd.	盛土
ヤマヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> Trin. var. <i>clavata</i>	草地
※コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> Roth	草地
※ヒメカナリークサヨシ	<i>Phalaris minor</i> Retz.	シカ捕獲用柵内
※ヌマイチゴツナギ	<i>Poa palustris</i> L.	草地、砂利敷地
※オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i> (Scop.) Holub	道路脇
イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Beauv. var. <i>crus-galli</i>	盛土
キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i> (Poir.) Roem. et Schult.	盛土
アカバナ科 ONAGRACEAE		
ケゴンアカバナ	<i>Epilobium amurense</i> Hausskn. subsp. <i>amurense</i>	森林ぬかるみ
アオイ科 MALVACEAE		
※ウサギアオイ	<i>Malva parviflora</i> L.	シカ捕獲用柵内
アブラナ科 BRASSICACEAE		
※ハタザオガラシ	<i>Sisymbrium altissium</i> L.	草地
タデ科 POLYGONACEAE		
※ハイミチャナギ	<i>Polygonum aviculare</i> L. subsp. <i>depressum</i> (Meisn.) Arcang.	砂利敷地、道沿い
ミズキ科 CORNACEAE		
エゾゴゼンタチバナ	<i>Cornus suecica</i> L.	砂浜沿い法面
ツツジ科 ERICACEAE		
コケモモ	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	草地
キョウチクトウ科 APOCYNACEAE		
イケマ	<i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim. var. <i>caudatum</i>	森林
ハマウツボ科 OROBANCHACEAE		
エゾコゴメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> Wettst. var. <i>yezoensis</i> (H.Hara) H.Hara ex T.Yamaz.	砂利道
キク科 ASTERACEAE		
(仮) エゾノキレハアザミ	<i>Cirsium yezopinnatifidum</i>	草地、浜堤、森林

外来種は和名の前に※で示した。生育環境は標本を採取した環境である。ハイミチャナギ、(仮) エゾノキレハアザミについては(2021 深津)の再同定。(仮) エゾノキレハアザミの種としての扱いについては本文を参照のこと。

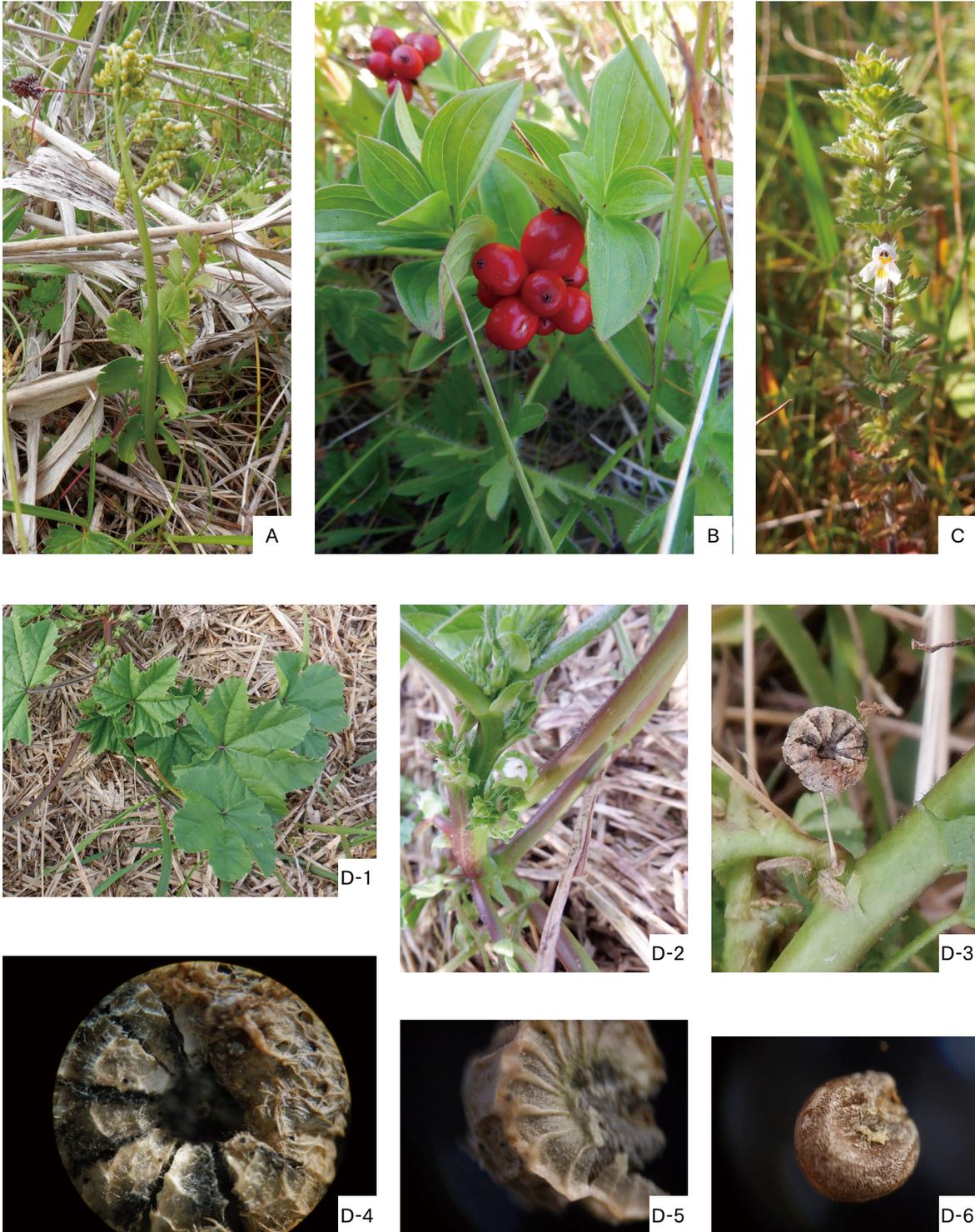


図1 植物写真

A : ヒメハナワラビ *Botrychium lunaria*

B : エゾゴゼンタチバナ *Cornus suecica*

C : エゾコゴメグサ *Euphrasia maximowiczii* var. *yezoensis*

D : ウサギアオイ *Malva parviflora*

(1) 葉 (2) シュート (3) 果実 (径 5.15mm)

(4) 分果は 10 個で表面は有毛 (5) 分果の縁には歯車状の翼 (6) 種子は無毛、径 1.8mm

※写真番号 D 1, 2 は 2021 年 9 月 26 日に撮影。D 3-6 は同年 11 月 13 日に採取した標本より撮影した。